

## 学生が地域包括ケアシステムにおける介護予防事業の調査に参加 尾道市との地域戦略協働プロジェクト事業 進捗状況報告

地域戦略協働プロジェクト事業の一つとして、理学療法学科では平成 28 年度から尾道市シルバーリハビリ体操事業についての効果検証を進めています。

シルバーリハビリ体操事業とは、まず介護予防体操を普及させるためのシルバーリハビリ体操指導士（以下、指導士）を地域在住高齢者の中から養成し、その後、体操指導を通じて地域在住高齢者が相互に介護予防を図る取組みをいいます。このような取組みは地域包括ケアシステムにおける介護予防事業として大変重要であり、近年注目されています。

本事業の取組みの一つとして、シルバーリハビリ体操を指導する指導士自身の身体的ならびに健康心理学的特性について調査を行っています。理学療法学科の学生も本調査に同行して調査内容の説明や体力測定の実施補助等を行い、さらにその測定データを一緒に解析することで地域包括ケアシステムにおける介護予防の重要性の理解を学修しています。

### ◇尾道市内での調査・データ集計

調査対象：シルバーリハビリ体操指導士 2 級養成講習会受講生

参加学生：理学療法学科 3・4 年次生、保健福祉学専攻大学院生

調査日：養成講習会受講前、養成講習会受講後（1 ヶ月後）、受講後から 3 ヶ月

調査内容：以下の調査を行いました。

- ①開眼片脚立位保持時間
- ②握力
- ③精神的健康度評価（K6 日本語版）
- ④高齢者の生きがい感評価（K-I 式）
- ⑤気分プロフィール評価（Profile of Mood States ; POMS2 短縮版）
- ⑥認知機能評価（Touch Panel-type Dementia Assessment Scale; TDAS）
- ⑦身体活動評価（活動量計の測定）

### ◇調査の様子

まず、初回調査において本プロジェクト代表教員から本事業の目的および内容について説明し、その後、学部生や大学院生らに片脚立位保持時間や握力等の測定を担当してもらい、測定会を実施しました。調査結果は後日学部生と一緒にデータ集計を行いました。

次回からは尾道市内別地区での調査と平成 28 年度調査対象者の 1 年後の調査を実施予定としています（後期の調査は計 6 回を予定）。



調査の様子①



調査の様子②